慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	「南の會」第一回南洋群島民族學調査團旅程
Sub Title	
Author	
Publisher	三田史学会
Publication year	1937
Jtitle	史学 Vol.16, No.3 (1937. 11) ,p.110(438)- 116(444)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19371100-0110

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

「南の會」第一回南洋群島民族學調査團旅程

(往路)

七月十二日　松本・八幡・杉浦・中野四名サイパン丸にて横濱出帆。

七月十六日　サイパン島着、島中見學の上興發クラブ宿泊。松江社長の招宴あり。

十七日　サイパン出發、テニアン島着、興發農場見學、次いでソンソンのタガ族遺跡を見て即日乘船出發。八幡だけ下船、マリアナ群島の考古學的調査をなす。

マリアナ班

十八日　八幡テニアン島ソンソン町北部より東部を調査し、サイパン島に赴く。

十九日　サイパン島發ロタ島に向ふ。途上テニアン島に下船、ソンソン島南部を調査す。

廿日　ロタ島着、興發クラブに寄宿し、ロタ調査諸般の準備をなす。ソンソン市街内各所を調査す。

廿一日　ガンパーパの石柱製作址の調査をなし、午後同地一帶の石柱列を調査す。

廿二日　南洋興發ロタ製糖所土地掛石山正峰氏と共にガンパーパの石柱製作址の實測を行ふ

廿三日　グッタ、テテート、ウギナウ、タタチョ一帶の石柱列を調査、タタチョのチャモロ部落を訪ひ、古老に就き種々聽取す。次いでサイリガイ、テノトーの石柱列も調査す。

廿四日　モーチョン一帶の石柱列を調査、多數の遺物を採集せり。サバナ高地に登攀、グワムを望見す。

廿五日　水田地方に赴き、水田址見學、下水田一帶及第九農區附近の石柱列を調査す。

廿六日　早朝ロタ島を發し、午後五時サイ

パン島歸着。

廿七日　サイパン島に於ける調査に關する諸般の準備を進む。

廿八日　ラウラウ・カッタン、ラウラウ・イナイハグマ、ラウラウ・リージョン一帶の石柱列を調査す。

廿九日　ダンダンの洞窟調査、記號を彫刻せる石あり。ヒナシスに登り、中腹の洞窟を見學す。

卅　日　アギーグヮン、オビジャンの石柱列を調査、アフェニヤ一帶の貝塚等の遺蹟を巡回す。

卅一日　パナデル、マッティー方面の石柱列を調査、タナパクのカナカ部落を訪ふ。

八月一日　テニアン島に渡りカロリナス一帶を調査す。

二日　カロリナス、通稱二本椰子附近の石柱列を調査、內中形のものを發掘すべく樹木を伐採し、列內四箇所を掘り、人骨一體其他を發見す

八月三日　雨天の爲調査不能。

四日　マルポ附近一帶、第四農場一帶の石柱列遺跡を調査す。大雨屢々襲來し、調査に支障を來すこと多し。

五日　ハブイ、カーヒー一帶の石柱列を調査す。

六日　天城丸に乘船パラオに向ふ。

十一日　パラオ着　コロールの本隊と合す。

パラオ班

七月十九日　松本、杉浦、中野ヤップ着下船、支廳にて島民の踊を見、次いで海岸のヤップ最大のヘバイ(島民集會所)を見、午後出帆。

廿日　パラオ着、南洋廳訪問、オロプシカル鐘乳洞より發見せられたる彩文土器を見る。東屋旅館宿泊。

廿一日　コロール及び附近見學。

廿二日　杉浦、中野、南洋廳にてパラオ地圖を寫す。松本微恙の爲休養。

廿三日　杉浦、中野、本島調査の準備をなす。松本休養。

廿四日　杉浦、中野、アルミズ島民部落を視察す。松本南洋廳訪問。

廿五日　松本、杉浦、中野、物産陳列場の土俗品を調査す。松本パラオ三田會に招待さる。

廿六日　一行オロプシカル鐘乳洞見學、骨の殘片を拾得、洞内の撮影を爲す。宿所を興發クラブに移す。

廿七日　松本ヌシ丸にてニューギニアに出發。杉浦、中野、かもめ丸にて本島に出發、一時マルキョク到着、同部落を視察す。夜同地村吏事務所宿泊、土地調査の必要より所有權、社會組織の研究をなしつゝある技手服部政一氏の造詣を聞く。

廿八日　マルキョクの南四キロなるカイシャルの諸部落見學、歸りてマルキョクのアバイ（島民集會所）、城址等を調査し、午後マルキョクの長老を集め、話を聞く。夜再びマルキョク宿泊、服部氏の研究の續きを聞く。

廿九日　カヌーにてオギワルに至る。宣教師レンゲ氏をその居宅に訪ひ、部落を一巡し、次いでガボクド村ウリマンに到着、同地村吏事務所宿泊。夜長老を集めて話を聞く。

卅　日　ガボクドの諸部落を視察したる後ガラルドより發動機船にてアルコルンに至り、同所駐在所一泊、長老を集めて話を聞く。

卅一日　中野、發動機船にて本島の北方約三十海里の地點に在る離島カヤンガルに至り同所一泊。杉浦、アルコルンの遺蹟を見、午後ガクラオまで歩く。同地にて島民傳太郎の家に泊し、長

老を集め話を聞く。

八月一日　杉浦、ガクラオ出發、ウリマンを經てガラルドの波止場に至り、カヤンガルより歸る中野と合し、同じ船でコロールに歸り、興發クラブに泊す。

二日　コロール發、發動機船でペリリウ島に向ふ。午後二時半同島着、磷鑛區及び公學校、中ノ澤遺蹟を見、アカロクルの興發クラブに宿泊

三日　トラックにてアシアスに赴き、同アバイに長老を集めて話を聞く。午後ガルドロロコを調査し、夜アシヤスの興發事務所に宿泊す。

四日　朝トラックにてアカルクル興發クラブに歸り、杉浦だけ乘船コロールに歸る。午後雨。

五日　中野、アシヤス磷鑛場を中心として遺蹟見學、午後西部海岸のガルキョクル部落を訪ふ。杉浦、コロール出發、舟にてマルキョクに至り、夜島民より同地民俗に就て話を聞く。

六日　中野、船にてアンガウルに至り、南拓の磷鑛採掘場見學の後アバイに赴き調査、次いで島民部落を一巡し、南拓宿舍に泊す。杉浦、マルキョクにて長老を集め、話を聞く。

七日　中野、早朝發動機船に乘じてコロールに歸る。杉浦、マルキョクアバイの敷地を測量し午後服部氏の話を聞く。

八日　杉浦、マルキョク出發、ウリマンに向ふ。途上スコールに遭ひ、且つ干潮にて徒歩上陸、その爲微恙を起し休養す。中野コロールに休養し、南洋廳熱帶產業調査所訪問。

九日　杉浦、村長の家の測量を行ひ、午後長老達の話を聞く。

十日　杉浦、ウリマン出發ガクラオに赴き、同地遺跡踏査の上、島民傳太郎の家に長老を集め話を聞く。中野コロール出發、マルキョクに赴き、丘上の廢村を調査し、同所一泊。

十一日　杉浦、舟に乘り、マルキョクにて中野と合し、嚴父の訃音を知る。四時興發クラブに歸り、ニューギニアより歸りし松本、マリアナより來りし八幡と合す。

十二日　一行コロールを發し、西海岸廻りの舟にてガラルドに向ふ。中野はアルモノグイにて一行と別れて下船、アルマテン、アイミオンの二部落を通過して南拓ガルミスカンの植民地訪問、此處にて一泊。松本、八幡、杉浦はガラルドに三時半到着、長老にガボクドのカヌーハウス、アバイ、村長宅等の說明を聞きつゝウリマンの村吏事務所に到着、同所宿泊、夜長老を集めて話を聞く。

十三日　松本、八幡、杉浦、ウリマンにて寫眞を撮り、土俗品を集め、舊アバイの遺跡調査をなす。十一時マルキョクに向ふ。途中オギワルにてレンゲ氏訪問、此處にて人夫を交代し、七時マルキョクに着く。此處でも長老達を集め話を聞く。中野、ガルミスカスカンを出發、ガルドックの植民地の煙を見つゝ、中央山脈を横斷してマルキョクに向ひ、ガボクドより南下する一行と落合ふ。マルキョク宿泊。

十四日　朝舟にて一行マルキョク出發、コロールに歸着、興發クラブに入る。

十五日　アラカベサンに行き、トコベイより移住せる島民部落及びパラオ島民部落を見る。午後コロールに歸り物產陳列場を訪ふ。夜本日南興パラオ所長の招宴あり。

十六日　杉浦、中野、高等法院訪問、松本八幡南洋廳を訪ひ、夕方松本、中野、コロール公學校を訪問す。

十七日　松本、八幡、オロプシカル鐘乳洞を再調査し、八幡完全なる頭骨、腕輪、土器片等を採集す。杉浦、中野、高等法院及び加藤末吉氏訪問、夜一行、小西駐在武官訪問。

十八日　乘船準備をなす。松本、中野、島民木工徒弟養成所及び公敎々會を訪ふ。

十九日　各方面に離島の挨拶をなし、パラオ丸に乘船、午後二時出帆。

（ニューギニア班）

七月廿七日　松本、ヌシ丸にてパラオ出帆。

廿八日　船少しく動搖す。夜メリー島を遙かに望む。

廿九日　トコベ島に到着、波浪高く且つ干潮の爲上陸不可能。下船客及び野菜を下して直ちに出帆。

卅　日　終日航海、氣候も溫和となり赤道祭と稱して一行元氣に談笑す。

卅一日　ニューギニアの山を望む。波稍々高きもドレ灣に入れば靜穩となる。マヌクワリに到着。オランダ人のクラブなるパッサングランに投宿。

八月一日　朝、日本人墓地を訪ふ。次いで船にて對岸のサンゲンに行き、パプアの部落、混血兒植民住宅等を見る。三時より邦人外人混合テニス試合あり。

二日　發動機船にてマンシナム島に至り、初期植民の遺跡及びパプア人住宅を見る。

三日　マヌクワリ南方を跋涉し、移民住宅を訪ひ、サンゲンに出で、パプア人部落を見、土俗品を採集し、カヌーにて歸る。南興社員天羽氏よりホランディア方面採集土俗品多數を寄贈さる。

四日　マヌクワリ附近を視察して土俗品を採集す。

五日　マヌクワリ北部海岸なるパプア部落で土俗品を採集す。

六日　採集品の荷造りをなし、ヌシ丸に積込み、夕方六時廿分ニューギニアを出帆。

七日　終日航海、此度は頗る海上平穩。

八日　朝、トコベ島に着、二時間碇泊、上陸して島民部落を視察し、土俗品を採集す。

九日　終日航海、暑さ稍增す。

十日　朝未明にパラオ着、興發クラブ宿泊

十一日　マリアナ班の八幡、パラオ班の杉浦中野と合す。

（歸路）

八月二十日　ヤップ着、公學校、病院を見、支廳にて島民の踊を參觀す。卽日出帆。

二十一日　杉浦、微恙にて臥床、デング病らし。

二十二日　テニアン着、松本、八幡、中野下船、八幡の先に發掘調査したる二本椰子附近の石柱列を見る。同夜興發クラブに泊し、慶應出身者達の招宴に列す。杉浦だけ船にて休養。

二十三日　興發製糖工場見學後乘船。

二十四日　サイパン着、杉浦恢復せしも上陸せず、他の三人だけ上陸、タナバコ島民部落を見、北部丘陵を越え、ドンニーまでドライブす。此夜興發クラブに泊し、夜慶應出身者達の招宴あり。

二十五日　サイパン出帆。

八月二十九日　平穩な航海を續け、一同無事横濱歸着解散す。